独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
臨床研究部長　募集要項

1. 職名及び募集人員

臨床研究部長　1名

2. 公募の概要

当院の臨床研究部は、昭和60年に地方循環器病センターが設置されたことに伴い、循環器疾患に係る臨床の質の向上を目指し、「系統的血行病態の研究」を行うことを目的として設置された。

その後、平成11年の「国立病院・療養所再編成計画の見直し」において、我が国が推進すべき政策医療のうち、「免疫異常疾患」の基幹医療施設並びに「循環器疾患」「がん」及び「骨・運動器疾患」の専門医療施設として位置付けられている。

現在、臨床研究部は、免疫異常疾患研究室、循環器疾患研究室、がん研究室、骨・運動器疾患研究室、未来医療研究室及び治験管理室の6研究室で構成され、病因・病態の解明や新たな診断・治療法の開発に関する研究を推進している。組織及び各研究室の概要については、別紙1及び別紙2のとおりである。

未来の医療に貢献する臨床現場に根差した研究の推進は、当院にとって極めて重要である。国立病院機構独自のネットワーク及びスケールメリットを生かした多施設共同研究や、機構外の国内・国際的大規模臨床研究等を推進するとともに、適正な臨床研究の実施に向けた指導及び管理を行うことができる人材を募集する。

3. 職務内容

1）臨床研究部の各研究室を統括し、当院における研究の推進及びさらなる研究業績の向上を図ること。
2）治験管理室長を併任し、治験・臨床研究事務局を統括すること。
3）国立病院機構のネットワーク及びスケールメリットを生かした多施設共同研究並びに機構外の国内・国際的大規模臨床研究等を推進すること。
4）適正な臨床研究の実施に向け、必要な指導及び管理を行うこと。
5）臨床研究の側面から病院運営に参画し、当院の発展及び医療水準の向上に寄与すること。
6）医師として診療業務に従事し、診療面においても当院に貢献すること。

4. 応募資格

次の条件をすべて満たす者とする。

1）医師免許を有する者。

2）原則として、15 年以上の医学研究歴を有する者。

3）臨床研究部の発展に寄与できる者。

4）臨床研究部の業務に加え、診療業務を行うことができる者。

5. 服務・給与等

独立行政法人国立病院機構職員就業規則及び独立行政法人国立病院機構職員給与規程等による。

6. 採用予定年月日

令和 9 年 4 月 1 日

7. 提出書類

1）履歴書（写真貼付）

2）推薦状（機関の長又は直属の上司等によるもの）

3）医師免許証（写）

4）大学の卒業証書（写）、学位記（写）又は博士号取得証明書

5）専門医・認定医・指導医等の認定証（写）

6）研究業績目録・集計表（指定様式）

7）主要論文 5 編

研究業績目録の該当論文に〇印を付し、論文の写しを添付すること。各論文について、研究の概要、主な成果及び意義並びに本人が果たした役割を、それぞれ 300 字以内で記載すること。

8）主要研究助成金一覧

過去 5 年間に受けた厚生労働省、文部科学省、民間団体等の主要な研究助成金について、採択年度、研究費・助成制度名、研究課題名、研究代表者・研究分担者の別、研究期間及び研究費額を記載すること。なお、研究費額は、研究代表者の場合は研究課題全体の総額、研究分担者の場合は本人への配分額とする。

9）これまでの活動概要及び今後の抱負

これまでの臨床、研究（臨床研究、臨床試験及び治験を含む。）及び教育活動の概要

並びに臨床研究部長としての今後の抱負について、3,000 字程度で記載すること。

上記書類を各 5 部（うち 4 部は写しでも可）提出すること。指定様式は、当院ホームページに掲載する。

8. 提出期限及び提出先

提出期限　令和 8 年 12 月 8 日（火）必着
提出先　　〒586-8521
　　大阪府河内長野市木戸東町 2 番 1 号
　　独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター　管理課長　宛

応募書類の封筒には「臨床研究部長応募書類在中」と朱書きし、簡易書留等、配達記録を確認できる方法により郵送すること。

9. 選考方法

当院臨床研究部長選考委員会において、書類審査及び面接審査を行う。

10. 面接審査日時

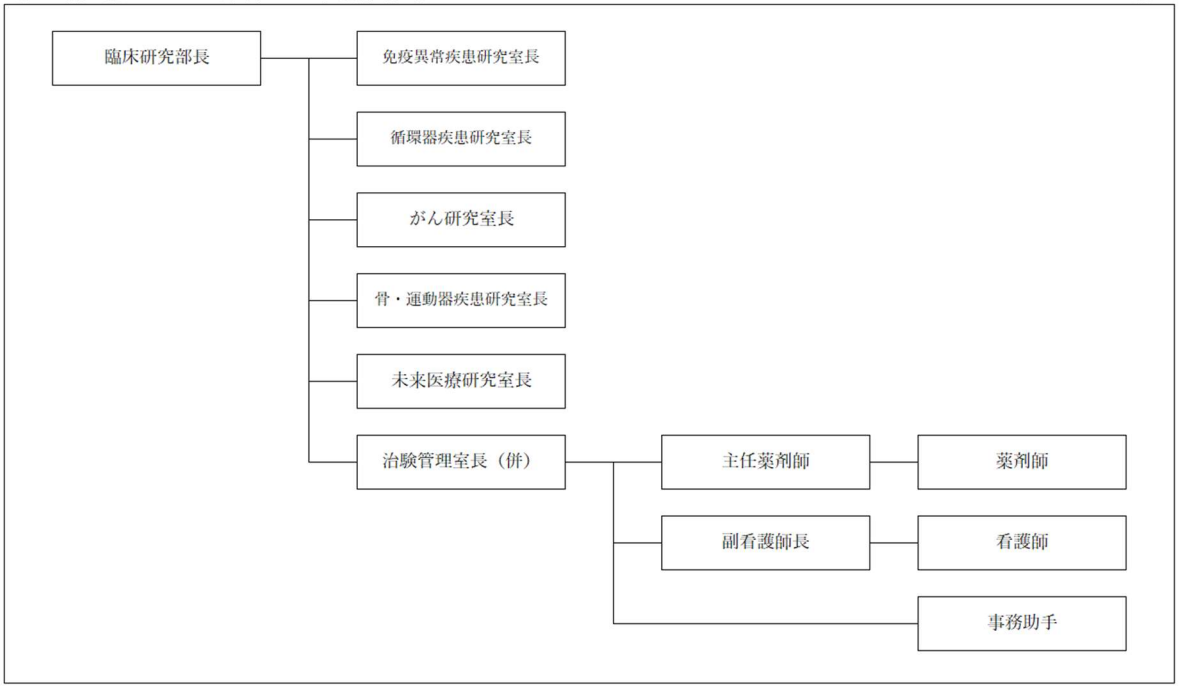
令和 8 年 12 月 15 日（火）15 時 30 分～（予定）

11. その他

国立病院機構の臨床研究組織については、毎年度、組織活動の評価が行われ、その実績に応じて数年ごとに組織の改廃が行われる。当院では、これまでの活動実績を踏まえて臨床研究部の設置が認められているが、今後の臨床研究部の活動状況によっては組織改廃の対象となる場合があり、処遇の変更が生じる場合がある。

（別紙１：組織）

【大阪南医療センター臨床研究部　組織体制図】　R8.4.1現在



（別紙 2：各研究室の概要）

1. 免疫異常疾患研究室

自己免疫疾患（リウマチ性疾患、膠原病、血管炎など）の病態形成の分子機構と病因・病態の解明に取り組んでいる。また、免疫異常を基盤とする難治性疾患に対して、分子標的治療や骨髄移植療法などの先進的な治療を実現するための基盤的研究と標準化をめざした研究を行っている。現在、科研・厚生労働科研・AMED・NHO ネットワーク共同研究などに研究代表を含め多数参加し研究を進め競争的資金を獲得している。RA-ILD に対する JAK 阻害薬の有効性と安全性の解析や、リウマチ性疾患と悪性疾患の合併例に対するそれぞれの治療（特に免疫チェックポイント阻害薬・分子標的治療薬）の有効性と安全性・予後の解析を通じて新しい治療法の構築を目指している。自己免疫疾患のリアルワールドデータベースの構築にも取り組んでいる。さらに厚生労働省班会議のメンバーとして小児リウマチ性疾患の移行医療およびかかりつけ医と専門医の地域医療連携に関するガイドライン作成にも尽力している。

2. 循環器疾患研究室

幅広い循環器疾患を対象に、多施設共同研究や臨床試験、症例登録研究を積極的に推進している。ESPIAL 試験をはじめ、急性冠症候群、急性心筋炎の全国調査、ST 上昇型心筋梗塞に対する微小循環保護戦略の有効性を検証する PROTECT 試験、虚血性心筋症の予後調査などに参画している。また、循環器関連学会主導の全国症例登録事業にも多数参加し、診療実態の把握と治療成績の向上に取り組んでいる。研究成果として、虚血性心筋症の臨床的特徴に関する英文論文や国内学会で発表を行っている。今後も臨床研究を通じたエビデンスの創出と地域循環器診療の質の向上を目指している。

3. がん研究室

肺がんに対する免疫チェックポイント阻害薬（ICI）や分子標的治療に関する第 III 相臨床試験に参加し、最新のがん薬物療法の確立に貢献している。特に、非小細胞肺がんの TOPGAN2023-01 試験では、治療レジメンの比較検討を行い、その成果を国際学会、英文論文で報告した。また自己免疫疾患を合併する非小細胞肺がん患者に対する ICI 治療の安全性と予後に関する全国多施設共同研究にも参画し、その成果を英文論文で報告した。さらに、関節リウマチ合併進行肺がんにおける ICI 治療後の間質性肺疾患（ILD）発症リスクについて独自の臨床研究を進め日本肺癌学会で報告した。乳腺外科は HER2 陽性乳がんに対する術前化学療法の第 II 相臨床試験に参加している。各診療科の専門性を基盤に、多施設共同研究や臨床試験への積極的な参画を通じて、がん診療の質の向上と新規治療法の確立に貢献している。

4. 骨･運動器疾患研究室

AI・機械学習を活用した診断支援技術の開発、低侵襲手術の客観的評価、新たな病態解明および医療材料の実用化など、基礎研究から臨床応用まで幅広い研究を推進している。短時間歩行動画を用いた深層学習による腰部脊柱管狭窄症の診断支援システムでは、骨格・シルエット情報を統合した高精度な診断技術を開発した。また、低侵襲性二孔式脊椎内視鏡手術（UBE）において、灌流水中の炎症関連分子や歩行機能の変化を用いた定量的評価に取り組んでいる。さらに筋筋膜性疼痛症候群の診断支援ツール開発、股関節手術の多施設調査と AI による合併症予測、薬剤徐放機能を有する炭素繊維複合材インプラントの実用化と臨床評価を進めている。加えて、関節リウマチなどの炎症性関節炎に伴う足部変形に対する関節温存手術の適応拡大や、外反母趾手術の成績不良因子の解明にも取り組んでいる。これらの研究を通じて、診断精度の向上、治療の低侵襲化・個別化、医療の質の向上および新規医療技術の社会実装を目指している。

5. 未来医療研究室

医療現場の課題抽出と医療機器開発を目的に、大阪医療センターの Bi-AMPS プロジェクトと連携し、スタンフォード大学式バイオデザイン手法を導入した多職種参加型の医療ニーズ調査を実施している。現在短時間の歩行動画を AI で解析し、運動器疾患の診断や機能評価に活用する技術の開発に注力している。また、人工股関節・膝関節置換術や大腿骨近位部骨折手術後の機能回復を客観的かつ経時的に評価し、予後を予測する AI プラットフォームの開発を進めている。さらに、企業との共同研究により、各種歩行パラメータを自動抽出する医療機器の臨床応用と、骨格・シルエット情報を統合した疾患判別システムの開発を推進している。これらを通じて、診断の標準化、術後回復予測、個別化医療の実現と医療機器の社会実装を目指している。